

令和 6 年度 議会運営委員会・議会広報委員会合同行政視察報告書

◎実施日：令和 6 年 5 月 1 4 日（火）

◎参加者：円谷 憲人（議長） 松本 寛道（副議長）

議会運営委員会

阿比留 義顯（委員長） 田中 晋（副委員長）

後藤 浩一郎 福元 愛 山田 一一 小松 幸子

渡部 和子 岡田 智佳 林 紗絵子

議会広報委員会

塚本 竜太郎（委員長）

桜田 慎太郎 佐藤 浩 村越 誠

伊藤 誠 若狭 朋広 小川 学

◎調査内容

実施日	視察先	視察項目
5 月 1 4 日	東京都 狛江市	議会だよりのリニューアルについて

狛江市は、東京都下の丘陵東南端多摩川沿岸に位置し、人口約 8 万 2,000 人、面積 6.39 平方キロメートルの東京のベッドタウンである。とってもらい、みてもらい、よんでもらうの 3 点をコンセプトにした狛江市の議会報 G G（ギカイガイド）について詳細に説明いただいた。

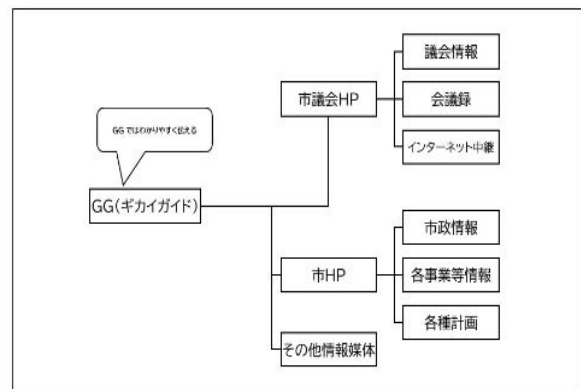


議会だよりは、議会の審議の内容や結果を広く市民へ伝えるための重要な役割を果たしているが、実際に手に取って読んでももらえないという状況にあった。また、狛江市の従来の議会だよりは、限られた紙面の中で全ての情報を伝えるため文字中心の紙面構成で、読者にとって見づらい紙面構成となっていた。そこで、令和元年 10 月より「こまえ市議会だよりのモニター」を設置して市民からの聞き取り調査を実施し、その意見を反映して令和 2 年からは配布方法を従来の新聞折込から全戸配布に変更した。また、議会運営委員会の中に新たな議会だよりを検討する小委員会を設置し、その後議会だよりの編集委員会として発展させ、令和 3 年 6 月にリニューアル版議会だよりの G G を発行した。G G は紙面の中で全てを伝えるのではな

く、議会を知る一つのきっかけとして位置づけた。詳細な情報については、市や市議会HP等へ誘導させていくように工夫することで、議会に関心がなかった層に興味を持ってもらい、編集委員会が中心となって、手に取ってもらい、見てもらう、そして読んでもらう議会だよりを目指しているという。

リニューアル後の市民の反応は、読みやすい、議会が身近に感じられた等、好意的な意見が多く寄せられたという。

予算措置としては、デザインの業務委託料や、全戸配布へ対応した印刷コスト・配布コストの上昇等があり、リニューアル前と比較し約180万円程度増加している。



GGの大きな特徴である特集ページにおいては、表紙の写真を見て興味を持ってもらった市民に、議会を身近に感じてもらうことができるような記事づくりを心がけている。特集の内容についても編集委員会の中で議論をし、議員自ら取材を行ったり、記事に掲載する写真撮影を行う等している。

また、裏面の一問一答のページについても、編集委員6人で質問事項を検討しており、議員の人柄を知ってもらうことで、議員と市民の距離を縮めることを目的として取り組んでいる。

その他、GGは紙面構成ごとに詳細な編集方針が定められており、2年ごとに編集委員会の構成員が

変化しても対応できるように体制を整えている。

今後の課題として、30～40代の若い世代に議会へ関心を寄せてもらうことや、事務局職員の負担を軽減させること、また議会との関わりを明確にして市の広報との差別化を図ること等が挙げられている。今後の方向性としては、GGをきっかけに議会に興味を持ってもらい、政治参加が増えることを目指しているという。

令和 6 年度 議会運営委員会・議会広報委員会合同行政視察報告書

◎実施日：令和 6 年 5 月 1 5 日（水）

◎参加者：円谷 憲人（議長） 松本 寛道（副議長）

議会運営委員会

阿比留 義顯（委員長） 田中 晋（副委員長）

後藤 浩一郎 福元 愛 山田 一一 小松 幸子

渡部 和子 岡田 智佳 林 紗絵子

議会広報委員会

塚本 竜太郎（委員長）

桜田 慎太郎 佐藤 浩 村越 誠

伊藤 誠 若狭 朋広 小川 学

◎調査内容

実施日	視察先	視察項目
5 月 1 5 日	茨城県 取手市	議会だよりについて

取手市は、茨城県の南端に位置し、人口約 10 万 6,000 人、面積 69.94 平方キロメートルのまちで、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境をもっている。今回、議会だよりを紙媒体から W e b 主体に移行した経緯や作成時の工夫について詳細に説明いただいた。



取手市議会は、住民参加型議会を一つの到達点として掲げており、議会での取組をただ行うだけではなく、それについての情報発信をすることに重点を置いている。取手市議会だより「ひびき」も議会の取組を発信する重要な情報発信ツールの一つであり、以前までは新聞折込で配布していたが、新聞購読者数の減少や実際に読んでいる人が少ないという状況があった。加えて、取手市議会においてペーパーレスの取組を推進するに当たり、タブレット端末導入の予算捻出と経費削減が必要になったことも議会報の在り方を見直すきっかけとなり、令和 2 年度から紙媒体の概要版と W e b 版の二つの形へと移行した。また紙媒体の配布は新聞折込から市内各所（市役所内、公共施設、駅等）への設置に変更した。



編集方法については、発行の約3週間前から作成・編集作業を開始し、事務局職員3名がメインとなり、担当するページの作成に当たっているという。完成した原稿を課内で内覧後に内容を確定させ、議長決裁が取れた後に印刷業者へと入稿し、その後1週間弱で納品される。

Web版ひびきの作成・編集作業は紙版の入稿後に課内全員で行い、紙版発行日と同日にアップロードしている。

概要版ひびきには一般質問を一切掲載せず、全てWeb版に集約し、概要版にはWeb版ひびきを閲覧できる2次元コードを掲載している。また、一般質問にはAI要約機能を利用することで、編集作業の効率化に繋げている。Web版の一般質問のページには、より詳細に会議の内容を知りたい方へ向けて、取手市議会のYouTubeのリンクを掲載し、議会の動画へもアクセスできるようになっている。さらに、Web版のみに掲載している「会議だけじゃないんです！議会」の特集では、議会のことに限らず、取手市が新しく取り組んでいることについて幅広く掲載することで、様々な切り口から議会へ関心を寄せてもらうきっかけづくりを目指している。

取手市議会ではSNSも幅広く活用している。SNS利用時の工夫として、一つの媒体にとらわれずに複数のメディアを結びつけることで、より多くの市民の目に触れてもらえる機会を生み出しているという。

SNSの活用 ～情報発信媒体とそれぞれの内容～	
Facebook 日頃、取手市議会が行っている取り組みについて公開できる情報はほとんどすべて発信。	
メルマガ 特に発信するべき取手市議会の情報。	Youtube 議案説明・本会議・委員会・全協などの会議の映像をライブ配信＆一般公開(360度カメラ)
X(Twitter) 本会議の議事進行を随時発信。	

議会報の令和6年度の予算措置については、印刷業者への委託料が約18万円、障害者施設へ依頼している二つ折り業務が約12万7千円の、合計30万7千円が見込まれている。

今後の課題としては、より多くの人に見てもらい議会に興味を持ってもらうこととしており、広報を充実させることにより関心を寄せてもらえるような情報発信を目指している。特に若者世代に見てもらうことを重視しており、議会が何をしているのか、行政がどういったことを行っているのかについて興味を持ってもらう入口となるような議会広報に努めていきたいという。